

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第38期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社ワオ・コーポレーション
【英訳名】	WAO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 社長執行役員 西澤 昭男
【本店の所在の場所】	大阪市北区中崎西2丁目6番17号
【電話番号】	06 - 6377 - 7971（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 副社長執行役員 大西 雄三
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区中崎西2丁目6番17号
【電話番号】	06 - 6377 - 7971（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 副社長執行役員 大西 雄三
【縦覧に供する場所】	東京本社 （東京都杉並区阿佐谷南2丁目14番4号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第1四半期連結 累計期間	第38期 第1四半期連結 累計期間	第37期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	3,396,125	3,308,681	16,710,472
経常利益又は経常損失( ) (千円)	536,693	597,484	332,696
四半期(当期)純損失( ) (千円)	719,113	305,722	396,388
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	719,484	305,307	397,315
純資産額(千円)	2,166,168	2,158,515	2,488,312
総資産額(千円)	9,416,440	9,699,525	10,030,983
1株当たり四半期(当期)純損失 ( )(円)	88.09	37.45	48.56
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	23.0	22.3	24.8

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、四半期(当期)純損失が計上されており、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第37期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理をしております。
5. 第37期第1四半期連結累計期間の四半期純損失については、「資産除去債務に関する会計基準」等の適用に伴い、313,886千円増加しております。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

その他の事業 当社吸収合併による連結子会社3社の減少

- ・(株)アートスタッフ
- ・(株)ワオネット
- ・(株)ワオワールド

この結果、平成23年6月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社2社及び持分法適用関連会社2社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州諸国の財政問題や円高の進行など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当教育業界では、少子化と社会の変化に伴う公教育の改革や消費者の学習塾に対する厳しい選別が進むなか、各社が自社の強みを活かした商品開発や業務提携等を積極的に進め、生き残りをかけた取り組みを加速させています。

このような環境のもと、当社グループにおいては、集合型教室「能開センター」及びフランチャイズ展開を含む「個別指導Axis（アクシス）」の新規開校、既存校（教室）の改装並びに人的体制の強化など、収益基盤の強化を進めております。「能開センター」では授業品質の徹底管理及び商品ラインナップの見直しに、「個別指導Axis」では学習プラン提案力の向上など、お客様一人ひとりのニーズへの対応の強化に、「ワオの家庭教師」では各県の「能開センター」「個別指導Axis」などの教室との相乗効果を図ることに注力しております。また、当社の持つ良質な教育コンテンツをより多くのお客様に効率的に提供するため、授業映像を活用した現行の「大学受験用映像学習コンテンツ『マイ速』」に続く、小中学生向け映像学習コンテンツの開発を進めており、この春より順次リリースを始めております。同時に、次代の教育を見据えたeラーニング事業の一環として、インターネットを介した家庭教師「東大オンライン」、「スタッド学習教室」のスマールステップ教材とデジタルペンによる在宅学習システム「ワオスタディー」などの商品開発にも積極的に取り組んでおります。旧子会社が手掛けていた、広報物の企画制作、教育専門のITソリューション事業、eラーニングの開発販売、デジタルコンテンツの企画制作については、学習塾部門との連携をより密にし業容拡大を図っております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高33億8百万円（前年同期比2.6%減）、営業損失6億4百万円（前年同期は営業損失5億48百万円）、経常損失5億97百万円（前年同期は経常損失5億36百万円）、四半期純損失3億5百万円（前年同期は四半期純損失7億19百万円）となりました。なお、当社グループの四半期業績の特徴としまして、第1四半期は、収入面で主たる部門である学習塾部門の講習会による収入が春期実施の一部しか計上されず、費用面で夏期講習会に向けた広告宣伝費が多く発生するため、費用が先行して発生することになります。第2・3四半期には、其々の期に夏期講習会の全収入・冬期講習会の収入の大半が計上されること、また、第1四半期に比べて生徒数も増えることなどから、利益が改善される構造となっております。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### 教育事業

当社グループにおける教育事業は、幼児から高校生を対象とする部門と社会人を対象とした部門から成り立っております。前者は、当社が運営する「能開センター」、「個別指導Axis（アクシス）」、「ワオの家庭教師」、フランチャイズ方式の「スタッド学習教室」及び在シンガポール現地法人が運営する「WAOシンガポール・オーチャード校」等であり、後者は、当社が運営する「WAO高等学院」等であります。

当事業においては、東日本大震災の影響もあり、東北・北関東エリアにおける春期講習会の売上が落ち込むなど4月度の売上が伸び悩みました。5月度以降は前年と同水準となっておりますが、第1四半期連結累計期間では減収、減益となりました。当事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は31億20百万円（前年同期比1.0%減）、セグメント損失は3億21百万円（前年同期はセグメント損失2億14百万円）となりました。

#### その他の事業

当社では、その他の事業として、印刷物等の企画制作、教育ソリューション事業及びエンターテインメント事業を主に行っております。これらは、当社による連結子会社3社の吸収合併により当該連結子会社から継承した事業であります。また、昭和アニメーション有限責任事業組合では、アニメーション映画の製作及び興行を行っております。

当事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は、1億88百万円（前年同期比22.7%減）、セグメント損失は27百万円（前年同期はセグメント利益2百万円）となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	34,400,000
計	34,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	8,600,000	8,600,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	8,600,000	8,600,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	8,600,000	-	1,146,375	-	996,375

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 436,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,159,900	81,599	-
単元未満株式	普通株式 3,300	-	-
発行済株式総数	8,600,000	-	-
総株主の議決権	-	81,599	-

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称等	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) (株)ワオ・コーポレーション	大阪市北区中崎西 2丁目6番17号	436,800	-	436,800	5.08
計	-	436,800	-	436,800	5.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,471,966	1,297,868
受取手形及び売掛金	485,997	188,626
商品及び製品	231,169	147,766
仕掛品	25,704	61,509
原材料及び貯蔵品	27,064	25,184
その他	445,171	749,972
貸倒引当金	29,601	21,232
流動資産合計	2,657,472	2,449,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,615,153	1,631,761
土地	3,325,739	3,325,739
器具備品(純額)	264,070	274,668
その他(純額)	36,771	11,786
有形固定資産合計	5,241,735	5,243,956
無形固定資産	264,639	248,414
投資その他の資産		
差入保証金	1,414,732	1,348,757
その他	465,224	421,521
貸倒引当金	12,819	12,819
投資その他の資産合計	1,867,136	1,757,458
固定資産合計	7,373,511	7,249,828
資産合計	10,030,983	9,699,525
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	56,600	54,285
短期借入金	1,641,669	2,416,670
1年内返済予定の長期借入金	888,998	905,664
1年内償還予定の社債	60,000	60,000
未払法人税等	179,071	22,209
賞与引当金	207,140	31,436
校閉鎖損失引当金	9,488	11,687
災害損失引当金	5,118	2,949
資産除去債務	34,716	8,016
その他	1,256,373	1,122,661
流動負債合計	4,339,175	4,635,579
固定負債		
社債	150,000	120,000
長期借入金	1,900,002	1,672,336
退職給付引当金	383,466	391,665
資産除去債務	439,839	454,204
その他	330,187	267,223
固定負債合計	3,203,496	2,905,430
負債合計	7,542,671	7,541,010

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,146,375	1,146,375
資本剰余金	1,009,110	1,009,110
利益剰余金	425,892	95,680
自己株式	92,025	92,025
株主資本合計	2,489,352	2,159,140
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	537	459
為替換算調整勘定	1,577	1,084
その他の包括利益累計額合計	1,039	625
純資産合計	2,488,312	2,158,515
負債純資産合計	10,030,983	9,699,525

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	3,396,125	3,308,681
営業費用	2,900,347	2,934,630
営業総利益	495,778	374,051
販売費及び一般管理費	1,044,305	978,596
営業損失( )	548,527	604,544
営業外収益		
受取利息	144	169
受取配当金	175	131
持分法による投資利益	6,758	16,720
受取手数料	1,769	1,629
保険配当金	16,666	2,415
その他	2,372	3,458
営業外収益合計	27,887	24,526
営業外費用		
支払利息	15,886	16,750
その他	166	715
営業外費用合計	16,053	17,465
経常損失( )	536,693	597,484
特別利益		
貸倒引当金戻入額	14,215	-
その他	-	1,708
特別利益合計	14,215	1,708
特別損失		
固定資産売却損	16,197	-
固定資産除却損	2,190	-
減損損失	19,542	-
校閉鎖損失	9,290	10,248
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	307,969	-
特別損失合計	355,191	10,248
税金等調整前四半期純損失( )	877,668	606,024
法人税、住民税及び事業税	20,604	13,857
法人税等調整額	179,159	314,160
法人税等合計	158,555	300,302
少数株主損益調整前四半期純損失( )	719,113	305,722
四半期純損失( )	719,113	305,722

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	719,113	305,722
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	495	78
為替換算調整勘定	125	493
その他の包括利益合計	370	414
四半期包括利益	719,484	305,307
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	719,484	305,307
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日  
至平成23年6月30日)

(連結の範囲の重要な変更)

前連結会計年度に連結子会社であった株式会社アートスタッフ、株式会社ワオネット及び株式会社ワオワールドは、平成23年4月1日付にて当社を存続会社とする吸収合併により解散したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日  
至平成23年6月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
	1 偶発債務 債務保証 一部の賃借物件の保証金について当社、貸主及び金融機関との間で代預託契約を結んでおります。当該契約に基づき、金融機関は貸主に対して保証金相当額を預託しており、当社は貸主が金融機関に対して負う当該預託金の返還債務27,125千円を保証しております。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1 当社グループの第1四半期業績は、収入面では主たる部門である学習塾部門の講習会による収入が春期実施の一部しか計上されず、一方、費用面では夏期講習会に向けた広告宣伝費が多く発生するため、費用超過となる傾向にあります。	1 同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
減価償却費 111,734千円	減価償却費 97,434千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	24,489	3.0	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	24,489	3.0	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (千円) (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (千円) (注)2
	教育事業 (千円)	その他の事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高					
外部顧客に対する売上高	3,152,323	243,802	3,396,125	-	3,396,125
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,388	98,493	101,882	101,882	-
計	3,155,712	342,296	3,498,008	101,882	3,396,125
セグメント利益又はセグメント損失( )	214,502	2,618	211,884	336,643	548,527

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 336,643千円には、セグメント間消去10,421千円及び各報告セグメントに配分されない全社費用 347,064千円が含まれております。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「教育事業」セグメントにおいて、減損損失19,542千円を計上しております。セグメント利益又はセグメント損失( )への影響はありませんが、「教育事業」セグメントの資産が19,542千円減少しております。なお、当該減損損失の計上額は、第1四半期連結累計期間において19,542千円であります。

(のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (千円) (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (千円) (注)2
	教育事業 (千円)	その他の事業 (千円)	合計 (千円)		
売上高					
外部顧客に対する売上高	3,120,313	188,368	3,308,681	-	3,308,681
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,120,313	188,368	3,308,681	-	3,308,681
セグメント損失( )	321,486	27,443	348,930	255,614	604,544

(注)1 セグメント損失( )の調整額 255,614千円には、セグメント間消去1,288千円及び各報告セグメントに配分されない全社費用 256,903千円が含まれております。

2 セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

当社は、平成22年7月23日開催の取締役会決議により、平成23年4月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社アートスタッフ、株式会社ワオネット及び株式会社ワオワールドを吸収合併し、資産、負債並びに権利義務の一切を引継いでおります。

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

株式会社アートスタッフ(印刷物等企画販売、ITソリューションサービス)

株式会社ワオネット(システム開発販売)

株式会社ワオワールド(コンテンツ制作販売)

(2) 企業結合日

平成23年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社アートスタッフ、株式会社ワオネット及び株式会社ワオワールドを消滅会社とする吸収合併であります。

(4) 結合後企業の名称

株式会社ワオ・コーポレーション

(5) その他取引の概要に関する事項

株式会社アートスタッフは大学向けITソリューション事業、株式会社ワオネットはeラーニング事業のシステム開発、株式会社ワオワールドはアニメーション制作事業を核として、グループ内で重要な役割を果たしてまいりました。

本件合併は、これら子会社各社が持つ経営資源とノウハウを親会社である当社のもとに結集し、当社(当社グループ)がより迅速かつ効率的に事業展開を行っていくことを目的とするものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額 (算定上の基礎)	88円09銭	37円45銭
四半期純損失金額(千円)	719,113	305,722
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	719,113	305,722
普通株式の期中平均株式数(株)	8,163,299	8,163,172

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第1四半期連結会計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月12日

株式会社ワオ・コーポレーション  
取締役会 御中

### 三優監査法人

代表社員 公認会計士 杉田 純 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 古藤 智弘 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ワオ・コーポレーションの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ワオ・コーポレーション及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。